

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員出口の所に理念を貼り、常に見えるようにしてある。1対1での入浴介護は、その日のその人とのペースにあわせている。	各ユニットの玄関に理念が掲示してあり来訪者に明示している。職員採用時にはホームの理念を伝え、毎日のケアの場面で具体的に理念に沿ったケアが提供できたかどうかの振り返りを行っている。職員は自分の言葉として理念を理解し、利用者と家族及び地域の人々とのコミュニケーションを大切に考え仕事に就いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花火大会、秋祭りの獅子舞は近所へチラシを配っている。地区行事への出品と参加、草取り。毎年鈴虫持って来てくれる以前の区長さん。獅子舞は毎年来てもらっている。	地区で唯一のグループホームでもあり、区費を支払い市報や館報、地区だよりが毎月配られ行事などの情報を得ている。今年も7月31日のホーム主催の「花火大会」のチラシを配ったり、貼り紙をし、地域の方をお誘いしている。花火の合間に盆踊りを入れたり子供の参加者にはお菓子を配ったりし、地域の人々との楽しい時間を持っている。ボランティアの受け入れも多種多様で毎週違ったボランティアの訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のボランティアの受け入れ。 裾花中学校の実習の受け入れ。 定時のボランティア来所、5組の参加よびかけている 施設内の見学はいつでもOK。 地域の介護教室へ講師として、行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	火災だけでなく、水害の防災訓練が必要と助言を頂帰、実施予定。	入居者家族、区長、民生委員、地域の方、地域包括支援センター職員、市担当職員で構成され、2ヶ月に一回定期的に曜日を決め開催している。隣の地区の方にも委員になっていただくなど、大勢の方に係わっていただいている。委員からの提案や情報も多くいただいている。会議の内容は職員に伝え、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、会議の前に議題持ち、出席お願いに行っている。市の講座等を通じ、資源を大いに活用して下さいと助言をもらっている。	事故報告書の提出など窓口に出向き説明を行ったり指導を受けている。家族より依頼され介護保険の申請や更新の代行手続きをしている。市よりの認定調査には情報を提供している。「介護あんしん相談員(介護相談員)」の受け入れもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口の施錠は、家人へ話しさせてもらっている。点滴は、居室内で付き添う。徘徊は、同行する。	契約時に家族へ説明し玄関は施錠している。外出傾向が強い方にはユニットの廊下を歩いていただいたり職員が一緒に外へ出て対応している。ベッド柵や囲いは一切していない。身体拘束をしないケアのマニュアルが用意されており、その都度事例で確認している。	

グループホームコスモスあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉による虐待にならないよう、常に心掛けている。 否定はしない言葉使いを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	希望があれば行っている、今年はまだなし。 過去2件あった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居はPMのゆったりとした時間としている。 書類は前もって持って行ってもらい、理解をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会等でお聞きしたり、生活記録を通してお聞きしている。 職員会議を連絡ノートに記入し全員に読んでもらっている。	毎月グループホーム便りと利用者担当の職員による「生活記録」が家族に送られている。家族より担当職員を知りたいという要望があり、年二回の家族会(6月・9月)で全体での話し合いを行い、その後アトラクション付きの昼食会をし家族と職員とのコミュニケーションを高める場を設けている。家族よりも職員のほうが利用者を理解していると喜びの声が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で検討しそれ以上のものは上へあげている。	第一水曜日に定例会議をしている。行事のこと、ケアプランの見直し、報告等を行っている。職員の発言は自発的にする人や指名され発言など様々であるが、多くの職員に発言を促している。職員の家庭事情を優先に勤務表を作成し働きやすい環境づくりをしている。開設以来の職員も大勢おり、継続的な支援が利用者の安心につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家族の都合第一優先で勤務表作っている。 検診年2回、リフレッシュ休暇あり。 外部より良い評価をもらったり、御家族様より良い事を言われた時は、必ずほめ言葉を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部の研修に参加。 勉強会の講師は職員を当てている。 研修機会はあるもなかなか参加する職員は少ない。		

グループホームコスモスあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH会議月1回あり 善光寺ネットへの参加。 近所の施設との交流会に若い職員を出している 安茂里地区介護事業所ネットワーク会議月1回あり。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず遠方でも逢いに行き関係作りしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、生活記録を利用。 入居前に荷物を数回に分けて持ち込みや、面接にて話すチャンスを作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家人の他にケアマネージャーを通し、デイ利用やショート利用時の情報をもらったり事前面接に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつでも声かけてもらえるよう職員より話しかけている。1つのテーブル内では、1人1人平等に声掛け。 煮物、縫物、味付け…等教えてもらえるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調不良時は早めに連絡を取り、面会お願いしている。 遠方の家族には、生活記録に、体重、血圧、つぶやき等記入を多くしたり、TELを回数多く入れるよう、面会持たずに行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人、小学校の同級生、同じサークルだった人の面会は、家族と同じ対応で居室へ案内。また来てくださいと声掛け。 美容室へ、近所散歩で知人に逢う。	お盆の墓参りに家族と一緒にいく方、時々家に外泊する方等いる。選挙の投票に行くことを希望する方が投票するために字の練習をしているという。奥さんが入居しているのでご主人が1週間に何度も訪問しており、外出行事にはそのご主人をはじめ家族にも声を掛けお誘いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク、作業等全員でなく、数人単位で。 塗り絵、縫物、布切り…得意な所へ参加。		

グループホームコスモスあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への面会と必要時食事介助。 法人内へ退所された方への面会。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなだけテレビを見る(プロ野球、12/31の11時まで)。 入所前に情報もらっている。 カンファレンスで理解。	自分の意思を伝えることができる方は場面場面で変わってくるが、職員と利用者の時間をかけた馴染みの関係が出来ているので利用者のうれしいと思うことや嫌がること等把握できている。病院へ車で行く時に、元気な頃良く運転をしていた男性利用者からは交差点で「こっちはオーライ」とか「赤だから駄目だよ」とか思いがけない発言が聞かれるという。常に利用者寄り添い、穏やかな毎日が送れるように考え支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家人より、通っていたデイや入居施設に聞く。 センター方式のケアプラン。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間に沿って書き、話し言葉で書いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時の暫定プランより、家人に聞き書き換え(見直し)3ヶ月ごとに希望聞いている。 変化のあった場合変更。	職員の担当制とし1人で利用者1人から2人を受け持っている。担当職員と計画作成担当者など3人以上の職員でプラン作成を行い、毎月の会議で全職員に知らせている。定期的な見直しのほか、変化のあった時はその都度見直しが行われている。家族へは毎月の便りでその旨を報告し来訪時に説明をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の中でも他の人の感じた、話した内容も書くようにしている。 ファイルは常に事務所へ置き、ワゴンへ置く。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当日の外出、外泊、OK。 身元引受人以外で頼っている関係の人には身元引受人へ連絡を取り、外出してもらっている。 PT,クリニックNSの補助、助言もったり協力体制は出来ている。		

グループホームコスモスあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店、床屋、美容院さんの協力。 推進会議出席の方の増員、8～11名に。 ケーナ、大正琴、手話、フラダンス、コーラスと5組の定時のボランティアあり。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、クリニックよりの往診、全員診察。 外部の受診時、Drの紹介状とホームよりの情報提供。	契約時、家族からの希望で法人のクリニックに変更している。毎週の往診と年1回の健康診断が行われている。採血は事業所で行われるがレントゲンと心電図のみ入居者が職員とクリニックまで出向き受診している。18名を1ヶ月かけ急ぐことなく行われている。訪問看護が必要な時はその都度お願いしている。クリニック以外の診察には家族付き添いをお願いしているが、入居者の情報等で管理者が家族と共に付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送り時活用等、連絡はこまめに取っている。 必要時、クリニックへの同行、外部医療機関へ同行と紹介状。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会は、こまめに(W2回) 入院先の職員との聞き取りの中で、必要時、食事介助に行く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、書面での説明。 変化のあった都度、なるべく細かに現状を伝えている。 本部との連絡こまめに取りあっている。 ケースバイケースではあるも、看取りとなった方1人いた。	「重度化における指針書」があり、契約時に説明をしている。職員は日常会話の中で管理者から「グループホームで看取りまでの時代になっている」という話を聞いているが、実際に直面した場合の不安は少なからず感じている。	看取りについて話し合いの場を設け、必要に応じて勉強会をしたり講師を招き研修会を開くなど、「看取りケアについて」更に理解を深められることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で機器の使い方、対応の仕方、職員講師で行っている。 事故対応は、その時の職員に行ってもらい必要時助言。		

グループホームコスモスあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練、火災と水害。床屋さんには想定で、避難場所としてOKもらっている。 有事はその時、その場面に応じた現場の判断と言われているも不安(中学の避難場所)職員会で避難場所の確認と備蓄品の確認	年2回の避難訓練が行われている。消防署への通報訓練と共に連絡網で休日の職員へ連絡をしホームへ応援に出向いてもらっている。防災設備はスプリンクラー、火災報知器等を完備している。昨年の大雨の時地区で水害があり、ホームも危険な状態をむかえたが本部への連絡、消防への連絡もスムーズに行われた。運営推進会議で委員の方々から水害時の具体的な対応策について提案をいただいた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	もし自分だったら、自分の親だったらと考えながらの介護	呼び名は苗字か名前に「さん」づけで呼んでいる。一人の利用者は本人の希望から「ちゃん」づけで呼ばれている。訪問調査日は雨降り、入浴の終わった浴室の脱衣場と浴室内には所狭しと洗濯物が干され、ドアで目隠しがされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険でないこと、見極めたうえでの本人確認。レクの内容、台所の仕事、テレビ番組、着るものの決定。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特におやつ時間は希望をとり入れている(場所も) ヒントを出し、決めてもらっている、その日のレク。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今着る物はこれでよいのか、風呂のあとはこれでよいのかを聞いている。 長い髪の方は髪型も聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る作業はOKもらったらしてもらっている。 食べたい献立を聞く。 味見だけの人もいる。 誕生日メニューは本人希望の食事を作っている。	全介助の方や見守りの方もいるが職員も一緒に同じものを食べている。献立は本部の管理栄養士が作成したものをアレンジしている。庭にミニ菜園を作り、収穫したものが各ユニットに分けられ食卓にのぼっている。2ヶ月に一回、市内のラーメン店の出張ラーメンを利用しており利用者から好評を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きなものでの水分補給。 刻み、少量、大盛と個別に。 食事量の少ない人には補助食。 体調不良時は病人食としている。		

グループホームコスモスあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回ポリデント使用。 歯ブラシ、コップは日光消毒。 仕上げ介助必要な方への介助。 歯間ブラシの使用。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用。 リハパン、パットの検討 ケアプランにて定時の大便の為のトイレ誘導。	各ユニットのキッチン的一角には排泄チェック表があり職員は作業しながらチェックしている。少しずつ筋力が衰えてくるので焦ることなく早めに声掛けしトイレでもゆっくりと支度出来るように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用。 起床時の牛乳飲用。 ラジオ体操(AM、PM)歩行、必要者は下剤内服 繊維質の多い食事を多くする献立作り		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2人介助必要の人の為、出勤人数の増員で対応 入浴順番は、声かけでOKもらってから。 菖蒲湯、柚子湯等季節の物を取り入れている。 音楽を流しながらの入浴。	月曜から土曜日まで毎日お風呂を立てている。1日に3名の入浴を計画し、月曜日と木曜日は職員を1名増員し2人介助の利用者に不安なく入っていただけるようにしている。異性の介護者を拒む利用者はいないが、男性の利用者が男性職員を嫌がる場面も時々あるという。落ち込む男性職員に「介護の仕方が悪いからじゃない。男だからだよ」と周りから慰めの言葉がかかるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣としていた夜間のラジオ使用の続行。 日中も居室で休みたい人にはやすんでもらう。 就寝時間はその日、その人の希望で。 布団干し、W1回。その人に合った家具の調整		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、チャートの前のページへおき、周知につとめている。 処方変更時は、白板へ置き見たら印を押す。 拒否あれば時間を置き内服や粉にする、牛乳で溶く工夫。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事も得意な作業してもらおう。 テレビ見たい人、日光浴が好きな人、音楽を聞きたい人、嫌いな食べ物は他の物に換える…など。		

グループホームコスモスあもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材購入時、希望ある人と買い物に行く。急な外出は無理だが、出たついでに希望を叶える。 全体での外出を多くしている、月1は行く年間計画と家人の参加呼びかけている。 誕生日に、娘さんと昼食。	春のお花見、善光寺参り、七夕祭り、紅葉狩りなど、年間の外出計画が立てられている。行事で出かけたついでに外食をしたり、買い物をしたりして楽しんでいる。七夕祭りで市街地まで行くと七夕より周りの店の方に目が行き「この店来たことがある」、「まだあるねー」などと話し、昔話に花が咲くこともしばしばあるという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はなし。小遣いは預かっている。 善光寺参りは、お賽銭をご自分で入れてもらいおみくじをひいた。 行事で外出時1人1品食材の買い物する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればおこなっている。 家人よりTEL入った場合本人にも出てもらい、居室又は事務所で話してもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を居室へ、廊下、食堂、脱衣室 季節の飾りつけ(雛人形、5月人形、七夕、正月飾り) 切花、季節の貼り絵。	季節の行事の飾り付けがされていた。七夕飾りの利用者の言葉を書き留めた短冊には「戸隠のおそばが食べたい」、「お母さんに会いたい」など利用者の気持ちが綴られていた。ひ孫の写真を貼り、リハビリ用に車いすから立ち上がりその写真に「チュー」をするように工夫するなど利用者本位のほほえましい空間作りがされている。利用者の手作りの手芸品も飾られている。西側の花壇にはエコカーテン用の朝顔が育てられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同志のそのときの集まり、居室で数人で過ごす。そんなときは、お茶の差し入れ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの居室を作る(人形、テレビ、机、仏壇、写真、作品) 冬の濡れタオル使用とエコ加湿器使用。	家庭よりの持ち込みは一人ひとりの違いはあるものの職員と共に掃除をし整理整頓された居室が印象的であった。100歳を過ぎた利用者には知事や市長からの表彰状が飾られていた。居室にベッドを置き入口を開け放している方や締めている方等、一人ひとりの思い通りの居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口にぬいぐるみ、絵。 ドア、布団に鈴、ベットに当て物、布団ベットにしぼる。 歩行器、シルバーカーの見直し。 居室にセンサー使用。		